

「G8サミット直前東京行動」へ！

安藤文将

『反安保実ニュース』をごらんのみなさま、突然ですが、六月最後の週末の予定はお済みですか。もしまだ手帳の六月二八、二九日が空欄になっているならば、今すぐそこに「G8サミット直前東京行動」とご記入ください。七月七、九日、G8サミットが北海道の洞爺湖で開かれることになっていますが、その期間中に内外の社会運動やNGOが様々な対抗アクションを企画しています。G8サミット直前東京行動はその前段に位置づけられ、様々な角度からサミットの問題点を考えることをねらいとしています。

六月二八日午前から午後にかけては、都内各所で分科会が開かれます。軍事、貧困、労働、自由貿易、民営化、マイノリティ、ジェンダー、食と農業、環境、途上国開発、治安管理等の問題に取り組む団体がそれぞれのワークショップを主催するので、関心を持たれたテーマに参加してください。分科会が終わったら文京区民センターへと移動して、全体会でお会いしましょう。世界的に有名なオルター・グローバリゼーション運動の活動家であるスーザン・ジョージの講演「G8サミットの何が問題なのか」、各分科会の報告、北海道行動の紹介といったプログラムでお待ちしています。室内での集会だけでは満足できない、自分の想いを全身で表現したい、という方は、二九日の昼間のデモで、都内を一緒に歩きましょう。

なぜG8サミットをターゲットにするの、という疑問をお持ちの方もいらつしやるかもしれません。たとえば、反テロを口実とする大国による軍事支配の強化は、サミットの主要議題であり続けてきました。近年の世界の軍事化は、サミットでお墨付きを与えられた方向を忠実にたどったものであると言えるでしょう。しかも現在ではサミットは、治安管理を議論する場であるだけでなく、それ自体が近年の治安管理の強化を

象徴的に示す場にもなっています。

五月一日、新潟での労働大臣会合への抗議集会は、サミットがいかなるものであるかを私に教えてくれました。非正規労働や女性労働、原発などの問題に取り組む地元のみなさん、さらには愛知や長野、さらには東京などからやって来た方々と一緒に、私は新潟駅前の大通りをデモ行進しました。しかし私たちの小さなデモは、けたましい音とともに空を旋回する数機のヘリコプターに監視され、私服を含めた多数の警官に囲まれていました。新潟駅やその周辺には、重装備をした警官が、多数配備されていました。丁寧に道案内をしている年配の男性警官が木製の長い警棒を持っている（持たされている）光景は、私には奇妙に映りました。しかも肝心の労働大臣会合に出席した大臣は日本の舛添要一だけで、他の国の大臣は欠席でした。サミット警備の目的は、各国の首脳を守るということよりも、警備することそれ自体にあるように思われます。こんな冗談みたいな警備のために、巨額の税金が投入されているのです。

東京行動では、このようなサミットに対するたくさん疑問を集めて、それを広くアピールすることをめざしています。サミット期間中に北海道に行かれる方はもちろんのこと、様々な事情で北海道には行けないけれどもサミットはおかしいと考えている方も、ぜひ東京行動にご参加ください。いま東京行動実行委員会では、賛同を募集しています。ウェブサイトで <http://www.jca.apc.org/alt-g8/?q=ja/blog/10> で呼びかけ文を確認のうえ、賛同いただける個人&団体の方は、gstokyo@gmail.com にご連絡ください。六月二八、二九日、東京でみなさまとお会いするのを楽しみにしています。

(あんどろ たけまさ / G8直前行動実行委員会事務局)